

陥没乳頭修正

——授乳機能を温存する酒井法——

酒井 成身¹ 酒井 成貴¹

Shigemi Sakai¹

Shigeki Sakai¹

新宿美容外科・歯科¹

陥没乳頭の修正は非常に難しく、術後すぐに戻ってしまうことが非常に多い。とある大学の形成外科の教授は「陥没乳頭の手術は難しいので手を出さない方がいい。」とまで言っている。陥没した乳頭部の中をよく観察するため、乳頭に垂直に切開を加えて深く入り込み、陥没した乳頭の乳管部をよく観察することから解決方法を考えた。Pitanguy や Broadbent の方法のように乳管を切ってしまうと修正されるが、それでは授乳が不可能となる。

そこで陥凹した乳頭のカルデラ火山のようになった外輪山様の部分を切開し、乳頭に垂直に入り込み、乳管を温存しつつ少しずつ乳管周囲の拘縮した組織を剥離解除し、乳頭を引き出す。乳頭を把持していなくても突出し続け、引き戻されない状態まで十分剥離する。ここがこの方法の最も重要な手技である。引き上げられた乳頭の内側基部の中央と両端に吸収糸で乳頭を引き寄せる固定を行う。乳輪部に dog ear ができるので、それを乳頭基部の絞めに Z 形成として用いる（酒井一法）か、余剰の場合が多くこの dog ear を切除する。剥離の段階で乳頭がなかなか持ち上げられないような極めて重症な陥没乳頭では、この dog ear の部分をひし形や紡錘形に表皮剥削し 2 枚の真皮弁とし、それを互いに引き寄せて吊り橋状にして、その上に乳頭を乗せるようにして乳頭の内側で引き寄せ固定を行う。これが酒井二法である。

当初から陥没乳頭を分類して

Grade 1: 簡単に徒手的に整復できるが、いずれ元にもどる

Grade 2: ピンセットなどで整復できるが、離すとまた陥没する

Grade 3: 手術によらなければ乳頭は出てこない

と分けたが、最近では他院で失敗してまた元に戻り瘢痕だらけで乳頭が欠損して非常に整復しにくい症例が多く、これらを Grade 4: と分類し、酒井一法でさらに周囲の乳輪を引き上げて乳頭を作成する酒井三法を考案した。